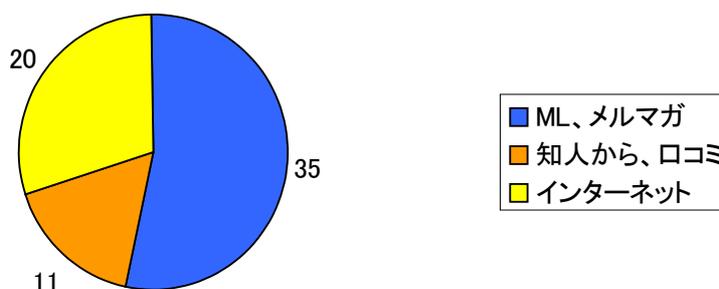


2006.10.12 緊急追悼集会

「アンナ・ポリトコフスカヤの暗殺とロシア・チェチェン戦争」 アンケート集計結果

(有効回答 61名)

1. 今日の報告会をどこでお知りになりましたか？(複数回答可)



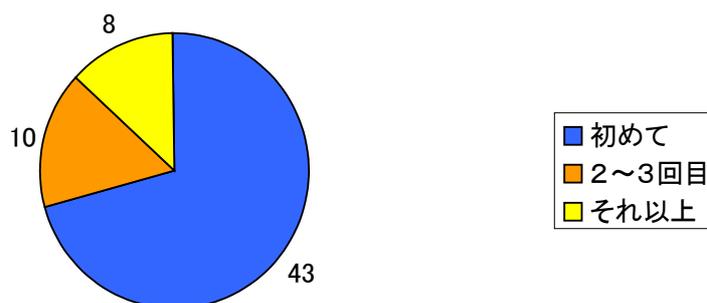
内訳 ●ML、メルマガ

DAYS JAPAN・・・10名、チェチェンニュース・・・6名、
アムネ스티・・・5名、JVJA・・・4名、aml・・・3名、
女たちの戦争と平和資料館、一枝通信・・・各1名

●インターネット

チェチェン総合情報・・・4名、mixi・・・3名
自分で検索、林さんブログ・・・各2名
きくちゆみさんブログ、チェチェンの子どもを支援する会、
阿修羅・・・各1名

2. チェチェン関連の報告会・集会には初めて参加されましたか？



3. 集会へのご意見、ご感想、今後の活動への希望などがありましたら、お書きください

●チェチェン問題は日本の将来を考える鏡です。人事ではないです。

●本日の怒りと悲しみを広く日本の国民の、特に若い世代へ伝えて行って下さい。小生も講演や講義で触れて行きましょう。

●今月の始め、個人旅行でモスクワにいた際、彼女の殺害をロシアの知人から聞かされました。数日前、その知人と彼女のこと、彼女の本について話をしたばかりでした。帰国後、インターネットで

調べた時に、この集会を知り、参加しました。

モスクワで彼女の死を知った時、大きなショックを受けました。ロシアの”良心”がまた1人亡くなったかと思うと、暗い気持ちにならざるをえません。このことで自分はどう思い、どう考え、どう行動していくのか、深く考えさせられます。

●チェチェン周辺国家へのスタディーツアー

●あまり政治的なこととは離れている私ですが、言論をつらぬく生き方に動かされます。基本的には人は死んだら終わりだと思っていますが、心は死なないというのも真実だと思います。

●チェチェン支援のキャンパは数回行っていきます。緊急にこのような会を開いていただいた事を感謝いたします。アンナの事は亡き米原万里さんが「チェチェンやめられない戦争」をNHKのラジオ第1で紹介していたので知りました。その時、米原さんは2004年に暗殺されかけた事も話していました。心のどこかにアンナの死を考えなくてはなかつたのですが、まさか本当になってしまうとは。真実を命がけて伝えるジャーナリストの死はショックであると同時に、今の日本への警鐘と受け止めたいと思います。

●私はオキナワの辺野古の闘いに行動を出来るだけしようとしていますが、共謀罪でも木津上人さんや平夏芽さんが逮捕されたりしている中、「日本もこのままいったらチェチェンとなる」とおはなし下さった林さんのことばが残っています。どこに置かれても日本の現在の状況を打破したいと思います。絶対に……。祈りとともに……。

●30数年前の学生時代に、ソ連の反体制の人々について調べ熱い思いで共鳴していたが、現在はロシアと関わる仕事をする中で忘れていたことを思い出すような気持ちで参列しました。

●憲法9条、教育基本法、憲法21条等々がおびやかされている今、さまざまな集会がもたれていますが、今日の集会ほど青年、壮年の参加者の多い集会は初めてです。高齢者ばかりが参集しても大きな力にはなりえないので、あせりを感じていますが、今日のように若い人々が大量参加しているのは本当に心強いです。

●『世界金融戦争』（NHK出版）でチェチェンのことをお書きになった広瀬隆さんも迎えて座談会はいかがでしょうか？

●本当にショックでした。とんでもない時代、良心を持つ人が殺されるあるいは投獄される。人は人として生きていきたいです。今後とも協力していきたいです。

●大学のゼミ論でチェチェン戦争について書いています。アンナ・ポリトコフスカヤさんの著書は参考文献として読ませていただきました。その直後に彼女の死を知り、情報を集めるうちにPCで今回の集会に辿りつきました。

貴重なお話しかせていただき、また今回の会の為に多くの方が集まっているのを目の当たりにし、改めてアンナさんのペンがどれだけの人の心を打ったかというのを感じた今日でした。彼女が受けてきたであろう数々の妨害や脅迫などを考えると、こうして彼女の本を日本で手にすることがとても有り難いことのように思います。

「知る権利」が認められているにもかかわらず記事を書く者が命をかけなければならないことに憤りを感じます。勇気あるジャーナリストを守るためにも記事を読む私たちが声高に権利を主張することが必要不可欠であると思いました。

今後このような集会に参加させていただきたいと存じます。本日はありがとうございました。

●ハッサン・バイエフ氏の水戸講演に向けて、アムネスティの水戸グループ内で彼女の「チェチェンやめられない戦争」を回して読んでいただいている中での殺害事件となりました。ショックです。

●チェチェンに関するニュースはほとんど入ってこないの、いろいろと知る機会となり大変良かったです。

●短い時間で集会の準備等大変だったと思います。日本にはまだ報道の自由があると思われているが、マスコミは政府の代弁というか、先取りさえしていると感じることがあります。安倍になって憲法と教育基本法の改悪に着手される。だから、ロシアのやり方は、ヨソのコトではない。

●ポリトコフスカヤ女史、バイエフ氏の命をかけた行動に人間として敬意を表します。これからも彼らを先頭に、また他にもチェチェンに身を投じている人たちのことを日本に伝えてほしい。ただ一方でこのことがロシアという国のイメージを悪くさせない努力もしてほしいと思っています。

●ロシアの現状についての知識が私にはあまりなく、今日の集会に来るのにはとてもためらいがあったのですが、二方のお話をきいて、今学んでいること以外にもロシアの現在の状況についてもっと知りたいと思いました。変な言い方になってしまうのですが、アンナさんの死をきっかけに新たな目標、世界の問題点に関して疑問をもつ心をより強く持てたことに感謝します。よい機会をもうけていただき今日はありがとうございました。

●日・露のジャーナリズム観について指摘があったが、チェチェン報道と北朝鮮報道に関しては同じように比較はできないと思う。北朝鮮報道に関しては、アンナ・ポリトコフスカヤのように潜入して、内実を探ってきたジャーナリストは日本にはいない。拉致報道についても北朝鮮側の言い訳をただ流すだけでおわっているのが事実である。もしもっと公平な報道を行うならば、バビーツキがバサーエフにインタビューしたように、日本人のジャーナリストもピョンヤンに飛んで、金正日に核兵器や拉致の件でインタビューするべきであろう（例え無理だとしても、それに準ずることをすべきである）。そこまで行うのがジャーナリズムであり、そんな苦勞をしていないのに昨今の大手報道だけを見て、「戦争国家に突き進んでいる」と言うのは短絡的であると思う。

●チェチェンのことは詳しくなかったです。残念な事件、彼女の死で注目します。同時に林さんの言葉ではありませんが、日本の状況もまた考えさせられました。

●JVJAの年次報告会には何度か参加しましたが、チェチェン関連単独のは初めてです。10/8（日）のJVJA、体調不良でうかがえず少なからず罪のイシキもありました。

実は「フォーブス」の編集長事件ぐらいいか知らずにでもNumber counts（で良いのかな？言い方なものだと思ひ足を運びました。先週「蟻の兵隊」を観に行った時も、もっともつ前に「送還日記」を観た時もBOX 東中野（時代だったよな？）で「プロミス」を観た時も同じ考えでいました。汚い字でゴメンなさい。

塩崎恭久官房長官の義兄は旧ソ連・ウズベキスタン大使角崎氏です（もう人事異動とかあったかもしれないけど）。塩崎恭久氏はバグダッドでフセインをわらいモスクワへは漁船だ捕で飛ぶも日帰り。もう既に高校時代から米国留学、すっかりアメリカさまさまの人間のような印象を受けますね。なぜならば私の伯父も彼らにとってもう1人の義兄であるからね。なんかガッカリすんだよな一。とゆー訳で無記名にさせていただきます。

●あまり報道されない、この暗殺の背景をくわしく説明していただいて良かったです。最近になって、アンナさんを知り、ロシアの裏側もあまり知らなかったのも、とても助かりました。

●集会開催の努力に感謝します。

●アンナ・ポリトコフスカヤ女史の事件に、とてもショックでした。日をおかずに集会を開いていただき、良かったです。

●ありがとうございました。

●ロシアについてほとんど何も知らなかったのも勉強になりました。こんなに人が殺されているなんて信じられない。絶対に許されない。日本で同じ様なことが起きているなんて知らず、衝撃を受けました。今まで持てなかったアンテナを、今日は持ち帰れそうです。ありがとうございました。

● (注) 「マインドマップ」の形式で記述しています。

感想 ①驚き：告知～開催 ← 短期間にもかかわらず！！ ← 感銘：「日本国内の関心の高さ」日本も捨てたものでもない。②日本：×他人事！！ ジャーナリズム 弱腰 → 「政治権力」 ③ロシアプーチン政権化：「強権化」← 以上想像 ex. ジャーナリスト殺害 not only アンナ but also 大勢 ← 集会レジュメ

教訓 ①他山の石 ×他人事 ○明日の日本の姿かも・・・要監視 → 権力：日本、ロシア、世界のあらゆる国！！ ②ロシア 要もっと関心！！ 今後を考慮 ex. 隣国、資源大国、軍事大国にもかかわらず、従来×強い関心 ③遺志を思う → アンナさん 人権、自由

●短い時間の中でこれだけたくさんの方が自ら協力し、一つの大きな意志ある集会としてまとめられましたこと、すばらしいと思います。お疲れさまでした。

●とても興味深かった。日本でどんどん集会をこれからもひらいてほしい。

●いつまで続くのでしょうか。いつもだれかが見ていることを知らせることが必要だと思います。

●短い準備期間だったと思いますが、大変有意義な時間をすごせたことを感謝致します。ありがとうございました。この集会のことは、たとえ「個人レベル」だとしてもしっかり周囲に伝えていくつもりです。それが私なりの追悼です。そして、日本とロシアは似ているという林さんの話はゾッとしました。足元もしっかり見ていきたいと思います。

●とてもよかったです。ありがとうございました。

●普段日本のメディアでなかなか目にしない「チェチェン」の文字が、彼女の死を持って広がってしまいとても皮肉に思いました。こんな中、貴重な講演をしていただきありがとうございました。今後みなさんの活動は私達にとって世界にとって重要だと言えらると思います。私に出来ることはこの問題を人に話すくらいかと思いますが、これからも出来る限り活動に参加させて頂けたらと思います。ありがとうございました。

●窓側の関で窓が開いていてとても寒く、誰も気づいてくれなかった。でもそんなことはどうでもいい。世界の言論の自由を圧殺する動きに対して、自分も非常な憤りを感じます。有志は頑張ってください。

●チェチェン問題はぼんやりとは知っていましたが、ロシアでジャーナリストがこんなに迫害されているとは知らなかった。真実を追究する彼女のような人が堂々とものを言える世の中にしなければならぬ。

●チェチェン紛争、またアンナ・ポリトコフスカヤさんについては全く無知だったのですが、この集会に参加して、これから知りたいと思いました。アンナ・ポリトコフスカヤさんのご冥福をお祈り致します。

●ポリトコフスカヤ女史の死の意味を日本のマスコミが充分伝えていないのが残念。ロシア程手荒ではないものの、日本でも政府の宣伝を右から左に流す状況では、ロシアと同じように言論の死を招くという林氏のメッセージには共感する。

●こういうことで集まるというのは悲しいと思いました（初めて参加しましたので・・・）。より多くの日本人にチェチェンのことを知ってもらうことを願います。数年前に、週刊金曜日でチェチェン戦争のことを知り、今は日本で全く報道されないのか、チェチェンがどうなっているのか、分からない状態でした。

●いつも本当にご苦勞様です。

●アンナ・ポリトコフスカヤさんが暗殺された直後、日本のメディアで一報が流れましたが、何日

もかけて報道するメディアは無く、本当にただ流れていくニュースのひとつになっていましたから、もっと詳細を知りたく今夜参加しました。現在のロシアの状況と日本の状況が似ているということに驚きました。なるほどそうだと思います。

●例えば今までのチェチェンについての市民の取りくみの歴史をかんたんにたどったものを資料につけたらよかったのではないのでしょうか。

アンナが告発する予定だった記事（チェチェンでの拷問）は、もう本当に読むことができないのかと思います。（可能性はないのでしょうか！？・・・）

アンナさん暗殺について。アンナさんが「プーチニズム」の中で「たとえ西側が都合がよくても、自由を要求する」という趣旨のことをつづっていました。「西側の都合」とはプーチンによるチェチェン人虐殺の容認などのことでしょうか。日本にくらす者として、日本政府などの姿勢を追及する（攻めさせる）ことの責任を考えます。日本政府としても何らかの意見を表明すべき（させるべき）と思います（例えそれが形式的なものであっても・・・）。

* こういう時はできればロシア大使館前でキャンドル・ビジルなどをやれたらなあ、などと思ったりしました（あそこは警備が厳しく、場所も狭いのでやりづらいかとは思いますが・・・）。

署名（記帳）が一人ずつで時間が足りない様子でした。一工夫あれば（集会前にも呼びかけるとか）よかったと思います。

集会の感想というわけではありませんが、集会呼びかけ文にあった「女史」という言葉に若干の違和感を覚えました。

BS2004年のポリトコフスカヤさんも出ている番組を見返しました。上映できればよかったですね・・・あらためて小規模でも上映会を企画してはいかがでしょうか。

●気になっていたが今まであまり知らなかった問題に触れることができよかったです。

●この集会で多くのことを知ることができました。アンナの使命感、歴史の進歩への役割を強く感じました。この集会は政党やその他に案内をしたのでしょうか。仲間うちだけの会合では日本の動きへの抑止にならないと思います。

●今後もロシアのこと、チェチェンのことを我々に伝え続けてください。私もできる限りのことをやっていきたいと思っています。

●僕は記者なので、同僚にアピール。真実を報道するのは、ジャーナリストの職業的倫理だということあらためて感じた。市民とメディアの「草の根」の連携を。マスコミ九条の会のHPにも僕は訴えています。

●日本のジャーナリズムは健全なのか？世界には数カ国しか存在しないかのごとき報道はどうか？外務省の記者会見ではロクな質問がない。新聞協会は記者クラブの開放を約束したが、何も行っていない。NHKの報道問題は怎么样了か？日本で作られた優れたドキュメンタリはどれだけあるか？「警察密着・・・」という番組をやっていて、批判できるのか？考えさせる素材をどれだけ提供しているのか？ヨーロッパの反戦運動も報道されなかった。人権侵害にいつも加担する日本政府を問題にしなければならぬ。ジャーナリストが入れない地域は沢山あり、私はチェチェンには関わってきませんでしたし、今後も難しいと思います。でも忘れません。

●林克明さんのお話は、ロシア批判をこえて日本の現状への強い危機意識を表明されたもので、それを共有する私にとって、とてもピンと来るものでした。今日の参加者の若い人たちにも、この問題意識を共有して欲しいと切に願います。

稲垣さんのお話も、ロシアのジャーナリズムの具体的な状況暴露を通じて、アメリカの湾岸戦争以降の報道統制に言及され、参加者への問題提起になったと思います。

以上、とても有意義な集会だったと思います。

*但し、日本国際フォーラムの代表者の挨拶は「問題をすりかえるな」として、単に反ロシアにとどまっていると思います。産経新聞や「正論」などの右翼偏向のメディアにのる論文の性格は明らかです。

●追悼集会では、追悼のみでなくチェチェンについて携わってきたジャーナリストやNGOの方々の講演もあったのが大変良かった。ただ映像が見られなかったのは非常に残念でした。ニュースを知ってとてもショックだったけれど、日本、東京でもこのような集会が開かれたのはとても意味があることだと思う。

●チェチェンの映像があればさらによかったかも。以前見て、チェチェン問題の大変さ、緊急性、どれだけのむごさなのかなどがよくわかったので。林さんが日本を心配する気持ちもよくわかります。だからこそ、一見平和に見える日本も、このままいけばチェチェンのようなになるかも、という不安は、映像により、より具体性を増すと思います。参加者1人1人の気づきを促すことができればいいですね。

●今のロシアの姿と日本の姿の関連性について、新しい視点を持つことができました。貴重なお話をどうもありがとうございました。

以上